

有限会社鱒谷養魚場 代表取締役 **と 戸部 匡さん**

「こちらへどうぞ。」と、ほほ笑みながら出迎えて下さった戸部匡さん。約1kmの細長く、段々に整備された養殖池の渡り板を進み、池をのぞいてみると、ヤマメ、イワナ、ニジマス、群馬の最高級と言われるギンヒカリ、引きが強く姿形の美しい魚として釣り人に人気のハコスチがイキイキと泳いでいます。昭和32年、日本で初めてヤマメの採卵、ふ化に成功したのは、お父様の戸部真吉さん。目の前のきれいな出水（です＝湧水）を巧みに利用し、試行錯誤しながら工夫を凝らして養殖を行って来ました。お母様のきよさんのお話では、当時の餌は自分たちで考え、栄養価の高いたんぱく源として、蚕のさなぎや牛のレバー、牛乳も与えていたそうです。その創意工夫は、匡さんにも受け継がれ、よりおいしく安全な魚を提供し続けています。健康に育てるために、魚自身の免疫力を上げてやるのが大事で、ビタミンCを与えているというお話は、コロナ禍にある私たちにも共通するところですよ。

田代の水は10℃前後の冷たい水で、成熟が遅くなる代わりに肉質が良く身の締りのよい魚となります。毎年、村で放流される戸部さんの魚達は、浅間の大地より流れる川や湖で泳ぎ、すくすくと成長していきます。



▲お母様のきよさんと匡さん。

▲元気に泳ぐヤマメたち。

「鎌原用水水質調査」を通して

駒澤大学地理学科 地域環境専攻 (現日本交通株式会社) **せきかわ 関川 優樹氏**

浅間山の麓には、至るところから水が湧き出ている。その湧水を水資源として古くから活用されてきている。

天明噴火で甚大な被害を受けた鎌原集落では、この湧水を利用した「鎌原用水」が流れている。集落を埋めた土石なだれ堆積物の厚さが5.5mもあったことから、沢水や地下水が得にくい環境にあった鎌原集落では、生活の水の確保に努めた。それが鎌原用水である。その水質調査を行った。

鎌原用水の湧水は、水源で約4℃と低温である。流下とともに水温が4.9～10.3℃まで上昇した。さらに小熊沢四良戸ダムからの水が合流する地点で2.3℃も上昇した。鎌原の田畑では12.6℃になった。さらに吾妻川へ向かって流れ下る所では14.6℃になった。

フッ素濃度は、水源付近から鎌原集落入口まで0.8mg/Lである。吾妻川へ流れ下る所で0.4mg/Lになっていた。ちなみに駒澤大学の水道水は、0.0mg/Lであった。

この調査結果から生活の叡智が裏付けられた。水温が低く稲作には不向きであった鎌原用水を小熊沢から引き入れた水と合流させることで、水温を上げるための措置が取られていた。今では、鎌原産のひとめぼれがブランド米になっている。また、鎌原住人はむし歯が少なく丈夫であると言われてきている。歯磨き粉に含まれているフッ素が水に含まれていた。

この湧水は、今では鎌原集落のみならず浅間高原で暮らす人々の水道水として利用されている。また、鎌原観音堂来訪者へのお茶や鎌原集落内の防火用水としても使われている。



▲鎌原用水の水温を計る関川優樹氏



あさまびと

A S A M A - B I T O



特集：水のめぐみ — 生命の源 —



浅間大滝

浅間大滝は、北軽井沢を代表する観光名所であり、このあたりでは最大の滝となっています。熊川の支流にあたり、浅間隠山などを源流とする沢が流れ込み、落差10メートル、幅4メートルにわたり豊富な水量が一気に流れ落ちます。

滝に続く道も整備され、水しぶきがかかるほど、滝のすぐそばまで近づくことができ、夏の人気スポットとなっています。

魚止めの滝は、浅間大滝の下流にある滝で、「魚が上りきれないほど激しい滝」という名前の由来通り、3段にわたる落差が迫力です。春の新緑から秋の鮮やかな紅葉にかけて、滝の白い水しぶきのコントラストが大変美しいところとなっています。遊歩道があり、川に沿って歩くことができるので、おすすめです。



魚止めの滝

ジオパークからのお知らせ

▲4/9 (金) 町営浅間園が「浅間山北麓ビジターセンター」としてリニューアルオープンにいたしました。



▲4/24 (土) 浅間牧場の売店に「浅間記念館(二輪車展示館)」が移動しリニューアルオープンいたしました。



▲2021.7月まで鎌原鬼押し出し園ジオツアーを開催中。毎週(日)8:30~9:00受付。料金1,000円+施設利用料大人750円 中学生650円子ども450円(保険料込み) 【お問合せ・申込: 0279-82-5566】



▲7月31日(土)より人気の浅間牧場周回遊歩道ジオツアーが始まります。ショートコース700円 ロングコース1,000円。 【お問合せ・申込: 0279-82-5566】

発行：浅間山ジオパーク推進協議会

Mt. Asama Geopark Promotion Council
制作担当：広報・観光委員会

〒377-1524 群馬県吾妻郡嬬恋村大字鎌原494-45
TEL/FAX: 0279-82-5566
URL: www.mtasama.com
E-mail: asama-geo@ebony.plala.or.jp
Facebook: www.facebook.com/asamageopark

ガイドの受付しています

「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ガイドによる案内の受付をしております。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。

[料金表: ジオガイド1人あたり]
半日 ¥7,000~10,000 ジオガイド1人につき
1日 ¥14,000~25,000 10名位までガイド可

編集後記

今回より、文字数を少なくしています。又、もう少し分かりやすい内容にして、なるべく多くの方が読みやすい記事を目指しています。今後ともあさまびとをどうぞ、よろしくおねがいします。

水のめぐみ

浅間山周辺の山々を歩くと、谷間や窪地に水が湧き出ている所がたくさんあります。その湧水が沢流れ、川となって吾妻川になります。沢ぞいを歩くとせせらぎと鳥のさえずりが聞こえてきます。沢ガニが石に隠れ、魚が泳いでいる姿を見ることができます。夜になるとホタルが飛びます。湧水は雨水が土に浸みこんでろ過されて地上に出てきたもので、太平洋へと流れ込むまでの間に私たち人間を含め動植物に潤いと安らぎを与えてくれる命の水です。水は、また蒸発し、雲となり雨となります。水の出発点、源流がここに 있습니다。



湧水が水道の水源(30ヶ所以上)



応桑貯水池に白鳥が飛来



鎌原用水で米づくり



あさマン

おいしい水

1リットルの水に30~200mgのミネラルが含まれているとおいしいと感じるんだって。その内、マグネシウムとカルシウムが含まれる量を示したものを硬度と言うんだ。降った雨が地下に染み込むと土壌や岩盤のミネラルが溶け込むから地上に出るまでの時間が長いほど硬度が増すんだね。硬度が高いと味が硬く感じるから硬水と言って、硬度が低いとなめらかな感じがするから軟水と言うんだ。硬水と軟水の基準は色々あるけど、日本では硬度100mg以上を硬水と言うのが一般的だって。浅間山北麓では、吾妻川を境に南側の浅間山山系から出る湧水は硬水が多く、北側の四阿山等から出る湧水は軟水が多いんだよ。

身近な水

せせらぎや滝の音を聞くと心が癒され、滝や溪谷を眺めると安らぎや落ち着きがえられるよ。そしてこのおいしい水でコーヒーやお茶をいれて飲むと、体の疲れが取れ英気が養われるよね。もちろんお米作りなどの農業には、水は欠かせません。こうして私たちは、水から様々な恩恵を受けて生活を支えてもらっているんだね。この水の資源を大切にしていこうね。



登山者の喉を潤す四阿山山頂付近の嬌恋の清水



水を汲みに来る人の多い千俣のしみず



鎌原観音堂のおもてなしのお茶



恒例の用水路清掃活動(おてんま)

